

2012年5月23日(水) 18:30 開演

会場:慶應義塾協生館藤原洋記念ホール(神奈川県)

全席自由: 会員・学生券 2,200円(一般2,500円)

会員・ペア券 4,000円(一般4,500円)

ピアニスト

山岸ルツ子さんよりご挨拶

'09年慶應義塾日吉キャンパス・藤原洋記念ホールでのカワイコンサートに続き藤原ホールでカワイコンサートに出演させて頂けることは大変嬉しい想いです。このホールは'08年こけら落としでの演奏以来、毎年演奏させて頂いており、河合楽器製作所より寄贈されたカワイSKEXも、技術者の皆様のご尽力により毎回弾く度にホールに馴染みより豊かな響きへと成長を遂げています。5月23日、私にとってのホームとも言える藤原ホールでのカワイコンサートにて、皆さまにお会いできることを今より楽しみに致しております。



会場限定盤 New アルバム

5/23

**カワイコンサートにて
発売決定!!**

ピアノを始めたきっかけは・・・

父の仕事の転勤の為、両親がバンクーバー(カナダ)滞在中に私は生まれました。ピアノの先生だった母が姉に教えていたところ、私も弾きたがったとか・・・その後、3歳の時に母から手ほどきを受けた事がピアノを始めるきっかけとなりました。

普段から母のピアノで姉と一緒に歌をうたったり手を叩いてリズムをとっていたといいますから、自然な成り行きだったのかもしれませんが。



(生まれ故郷のバンクーバーのご自宅にて)

山岸さんの趣味、趣味から繋がる音楽感とは・・・

読書や映画鑑賞、旅や美術館、窯元のお店めぐりなど。

見るもの、聞くもの、触れるもの、味わい、香り、

感じるもの、...

あらゆる体験は人を創り、それは音楽に昇華されるものだと感じています。



(庭園が美しい足立美術館にて)



Rutsuko Yamagishi Live in Recital
～ピアノの魔術師フランツ・リストへ捧ぐ～
曲目: 軽やかな息/ため息/エステ荘の噴水/
ラ・カンパネラ/ハンガリアン狂詩曲第2番/
タランテラ/ダンテを読んで
ピアノ: 山岸ルツ子
録音: 2011年11月29日 浜離宮朝日ホール
Blue lights \2500 (税込)

今回のプログラムを構成する上での山岸さんの想い。

これまで長いことショパンとリストを中心としたロマン派のプログラムに取り組んできました。昨年のリストイヤーでオールリストプログラムに取り組んだのを区切りとして、今度は基本に立ち返り、じっくりと取り組みたいと長年思い続けてきたバッハに焦点をしばり、今年 生誕150年を迎えるドビュッシーの作品を共に取り上げることにしました。バッハとドビュッシーは時間的に大きな隔たりのある二人の作曲家ではありますが、並べてみると意外にもバッハ音楽の斬新さが見えてきたり、双方の意外性が浮き彫りにされるので面白い組合せだと思います。絶えざる前進を続けるために「革新へ」、という想いを原点に今回のプログラムを構成してみました。



(2008年 藤原洋記念ホール柿落としてにて
司会の木村太郎さんと)



(スタンディング・オベーションで迎えられた
チリでのコンサート)



(チリ公演での林大使御夫妻と
主催者と関係者の方々)



(チリ公演にて)

皆で創るコンサート・・・

'99年のデビューリサイタル以来、国内外様々な場所での演奏を通じ、一つの舞台とは
実に多くの人々によって創られるものだという事を毎回感じて参りました。

コンサートの開催に向けて何ヶ月も前から膨大な準備作業に携わる方々や、当日会場に
ご来場下さる方々がいらっしゃって、初めて演奏者は舞台上に立って演奏することができます。

そして、演奏とは、それぞれに違う時間が流れている方々がコンサートホールの中で同じ時間を共有し、
弾き手と聴き手が音楽を通して双方向に働きかける流動性の中から生まれてくるものだという事を感じて参りました。

1回1回のコンサートで心の底からあふれ出る想いとは、この奇蹟のような舞台上で弾かせて頂けることへの感謝の念に尽きるものです。

バンクーバーからフィレンツェへ

幼少の頃から海外での生活が大半の人生ですが、親の駐在に伴う海外生活と単身での留學生活とは
随分と様相の異なるものでした。特に、生まれ故郷で馴染みのあるカナダでの生活とは違い、イタリア・
フィレンツェでの8年間にわたる生活は、実に新鮮な体験の連続でした。街そのものが美術館のような
街並みは、石畳の道、石造りの建物、街のいたる所に現れる彫刻、歴史ある教会が佇み、郵便局に行けば、
総大理石の床にカウンター。知人の家を訪れ何気なく目にするのは指定遺産の Fresco 画であったり・・・

まさに芸術の街で過ごす日々は、生活そのものが音楽に直結
するものでした。同時に不便なこともたくさんありました。
何百年もの歴史ある古い建物ばかりなので、上の階の人が
洗濯機を取り付ければ、翌日には水が天上から漏れて床が
水浸しになったり、修理屋さんに電話してもなかなか来ては
くれないのんびりとした対応で何日も待たされたり・・・
停電や断水もよくありました。ただ、停電した時などは暗闇の中で蠟燭を灯していると、
まるで中世の世界に入り込んだかのような風情で、それはそれで、なかなか楽しい出来事でした(笑)



(美術館のようなフィレンツェの街並み)



(ミケランジェロの丘から眺めるフィレンツェ)

山岸さんのもっと詳しい情報は公式サイトよりどうぞ

山岸ルツ子公式サイト <http://www.rutsuko.com/>
公式ブログ <http://rutsuko.cocolog-nifty.com/>

PROFILE

山岸ルツ子 (ピアノ) やまぎし●るつこ

カナダ、バンクーバー生まれ。3歳よりピアノを始める。

日本に帰国後、6歳より父の赴任先マニラ市に転居、元スペイン総督の長女でピアニストの Stella Goldenberg Brimo に師事。9歳の時にマニラ市パコパークにおいてリサイタルを行い現地の教育テレビにて全国放映される。帰国後、桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学音楽学部演奏学科ピアノ科で学び、19歳よりバンクーバーに留学、ユージン・スコボロドゥニコフに師事。ロシア・レニングラード派の基礎を学ぶ。97年巨匠ラザール・ベルマンの下に弟子入り。以後8年間に亘り最後の弟子としてイタリア・フィレンツェにて研鑽を重ねる。

95年ローマ国際コンクール第3位受賞。97年カナダ、キワニスコンクール、コンチェルト・ソロ両部門において総合第1位受賞。

同年カナダ、B.C. アソシエーション・パフォーミング・アーツ・コンクールにて審査員全員一致の第1位受賞。

99年東京カザルスホールでのデビューリサイタル以後、NHK-FM「FMリサイタル」「名曲リサイタル」、石井竜也クラシカルコンサートツアー、古澤巖ヴァイオリンリサイタル、全国各地でのカワイ・コンサートをはじめ数多くのコンサートに出演。

海外では、フィレンツェ・ガッターイ宮殿、フィエーゾレにおけるリサイタル (同時ライブCD録音/発売)、アレツォ「美術館の夜」コンサートシリーズへの出演などイタリア各地での公演をはじめ、リトアニアにおける数多くのコンサート出演、カウナス室内管弦楽団との共演、レイトン・バザード劇場でのイギリス公演、エストニア・D.オイストラフ・フェスティバルにソリストとして招かれるなど、ヨーロッパを中心に活躍。2010年にはチリ・サンティアゴ市にてソロ・リサイタルを行い、20ヶ国の大使をはじめ満場の聴衆のスタンディングオベーションを受け南米初公演を大成功に収めた。近年は、演奏活動の傍ら、公開レッスン、公開講座、コンクール審査員を務めるなど、後進の指導にも積極的に携わっている。これまでに7枚のCDと1枚のDVDが発売。